

## 議 事 録

- 会議名 第16回佐賀県総合教育会議  
開催日時 令和2年3月24日(火曜日)11時～12時  
開催場所 佐賀県庁新館4階 プレゼンテーションルーム  
出席者 山口知事、落合教育長、牟田委員、小林委員、加藤委員、飯盛(清)委員、  
飯盛(裕)委員  
(知事部局)小林副知事、大川内政策部長  
(総合教育会議事務局)林政策総括監、他  
議題 (1)教育現場における新型コロナウイルス感染症に係るこれまでの対応の振り返り  
(2)前回テーマ(校則と指導)についての対応報告  
(3)教育分野に係る令和2年度の主な取組

### 議事録

#### 1 開会

(林政策総括監)

これより第16回佐賀県総合教育会議を開催いたします。

本日は、教育委員の皆様その他、小林副知事も御出席をいただいております。

それでは、開会に当たりまして知事から御挨拶をお願いいたします。

#### 2 あいさつ

(山口知事)

ありがとうございます。御案内の通りコロナ対策という事で、その話をさせていただきたいと思えます。毎日PCR検査を続けておりますが、昨日まで113件検査をしまして、御案内の通り陽性は1件ということで、本日も4件検査されております。これを、毎日繰り返しているという毎日であります。コロナについて、我々が今考えてる事、特に私自身が考えてる事ですけれども、非常に厄介な問題であるのは、感染症対策、感染対策をやらなければいけない。しかも、これは危機管理の中で言うと、予見出来ない。他の災害とかであると、ある程度想定した中で、先を見ながら動くという事が出来るんですが、逐次その日ごとに、どういう事が起きるのかということが、予見可能性が非常に薄いというところに、非常に大きな課題があります。

そして、日々の県の日常はまだ先です。それを、出来る限り特に子どもたちに関して言えば、心身ともに発育していただきたいなという思いと、それから段々こうやって日数が経てきますと、経済的に佐賀県が疲弊してしまうんじゃないか。今、多くの盲点を突かれている。この両方を考えながら、どの様な対応をとって行くのかという所が、非常に悩ましいというのが大きな課題だと思います。

そして、もう1つ大きな課題があるのは、我々は今こんなにネット社会になって、様々な情報が行き交い、世界で何が起きているか、今イタリアやスペインで大変な事になっています。そういう様な状況の中で、そして、この日本という国の中でも、むしろ拡大傾向にあったりと、毎日のように陽性が出てくる地域と、そうでない地域という日本の中での地域差があります。そうした地域差がある中で、佐賀県としての判断をしなければいけない。特に国の方針も、地域それぞれで判断という傾向が、今強くなってきた風に思います。そうした中で、我々としてどういう風に、これに対応していくのか

という事を、ずっと考えて参りました。そうした中で、今回は、非常に教育現場に大きな影響をもたらすことである訳ですが、それでもいわゆる知事部局、我々の方としての医学的・健康福祉的な知見だとか、それから経済と様々な面という事を考えると、知事と教育長部局が密接な連携をとってやらなければいけない、という事象であるだろうという風に思いますし、これからもそういう関係は続けていかなければいけないという風に思います。

振り返ってみたいと思いますけれども、2月27日に全国一律に休校の要請が、総理の方からありまして、非常に驚いたんですけれども、1日しかなかったんで、その時に国の方では、3月2日から月曜日からという話がありましたが、佐賀県の場合は、いきなり月曜日からという事になりますと、生徒と話す暇もありませんし、土日の間に教職員の皆様方がどう伝達するのかと、1日遅らせることで非常に大きな効果があるんじゃないかということで、3月3日から、しかも春休みまでではなくて15日までで、一旦様子を見ようと判断をさせていただきまして、その旨決定しております。そうした中で、佐賀県は陽性者が0だったので、一旦は3月11日に、3月16日から学校を再開しようという判断をさせていただいたんですが、ところが、御案内の通り3月13日に初めて感染者が確認されて、それがちょうどフランスから帰国した20代の若者だったので、非常に多くの接触者がいたわけで、全くどうなるんだろうという事で、23人を1人1人丁寧に調査して、検査して、1日で終わらせて、非常にこれは幸運だったんですが、23人全員「陰性」という事になりました。そういったこともあって、我々は卒業式・修了式については、感染症対策を徹底して、実施しようという事で、今週を迎えているということでございます。そして、ちょうど今日は、先週20日の対策本部会議で、私の方から、新年度からは学校は通常通りの準備をしようじゃないかという事で、政府の方針が出ることだったので、それを踏まえて正式決定しよう、という話をさせていただきました。そしたら政府の方針というのが、今日の午前中に、たまたまこのタイミングだったのですが、出まして、先ほど教育長と話をして、政府方針の内容をみて、おおむね我々で考えている方針で問題なからうということで、別途教育長の方からはっきり手続きされると思いますが、基本的には学校再開の方向で行きたいというふうに考えております。密集・密閉・密接の3つが重なった所が課題だということで、そういう観点で考えたところ、佐賀県の場合は、とにかく換気ですね。学校を含めて換気を徹底的にやるということが、1つ大きなポイントなのかなというふうに思っております。そして、今基本的には陽性は、まだ1件。処置中の彼が陽性ですけど、これから、もし陽性が出たら、そこでしっかり関係者も含めて封じ込めるということを、この前やったようにしっかりやって、1個1個潰していくという事をしっかりやって行きたい。その限りにおいては、そのコントロール出来ている中で対応して行きたいと思っておりますけれども、仮にそれが、クラスターが発生したとか、そういう予兆が見えたしたら、その時にしっかり対応していくという事で、適宜適切な対応をしていくということになるかというふうに思っています。という事で、我々はこうした考え方で対応しておりますけれども、これまでの対応を含めて教育委員の皆様方はそれぞれのお考え方もありましようし、そしていろんな声を聞いてきたと思いますので、ぜひそういった御意見などもお聞かせいただきたいと。そして、私が何より毎回申し上げてるのは、今回みたいなことに関していうと、誹謗中傷だとかいろんな所から出てきがちなので、ネット社会もありますから、そういったところをしっかりと佐賀県らしくみんなで、連携しながらやっていくというのを、改めてお願いします。以上になります。

(林政策総括監)

ありがとうございます。次に、教育長からお願いします。

(落合教育長)

先ほど、知事の挨拶の中にも触れていただきましたけれども、今朝、文部科学省の方から事務次官通知という事で、「令和2年度における小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等における教育活動の再開等について」という通知がありました。この中身を確認したところ、先週3月20日に対策本部会議の中で、知事の方から、基本的には、学校は通常通り再開すると、準備を進めてほしいとありまして、今日示された政府の方針を見て、改めて方針を決定すると示していただいております。この通知を確認した上で、我々の先週の方針に変更を加える必要がないと考えましたので、先週の方針通り新年度から通常通り学校を再開するという事で、直ちに県立学校に通知すると共に、市町の教育委員会や市立学校にも、その通知をしていきたいと考えております。以上です。

### 3 内容

#### (1) 教育現場における新型コロナウイルス感染症に係るこれまでの対応の振り返り

(林政策総括監)

ありがとうございます。まず最初の意見交換の議題ですが、これまで教育現場に様々な負担がかかってきた、この一連の新型コロナウイルス感染症に係るこれまでの対応の振り返りを、具体的に話していきたいと思います。教育委員会の皆様の中でも、小林委員は子どもたちの居場所作りに関わっておられて、かなり負荷も大きかったのではないかと思います。振り返ってみていかがでしょうか。

(小林委員)

私たちも2月27日の夕方のニュースを見て、びっくりしました。私たちの居場所が民家を借りていて、小さな居場所なんです。多くても10人くらいしかいませんが、公民館なので、そんなに多くの不特定多数が来るような場所じゃなかったのも、私たちもどう対応しようかなと思っていたところ、放課後児童クラブと放課後デイサービスを休校中の受け皿として作ると言われたので、では私たちも、換気とか、手洗い、うがいとか気を付けて、出来る限り通常通りやっていくこととしました。

最初は子どもたちも少なく、やはり出てはいけなと、きっちりと守る。しかし、段々、家にいることがしんどくなってきて、子どももお母さんもしんどくなってきて、今は6・7人の子どもが来て、お母さんたちも2・3人がほぼ毎日来ている感じです。出来るだけ外の空間で走り回ったり、体力維持が出来た方がいいと思っていて、近くに公園があるので、あえてこういう時期だからこそ、あまり接触しない遊びというのを、あえて楽しもうと、サッカーの接触プレーではなく、ロングパスの練習をしようとか、わざと離れて遊ぶような遊びばかりやってみようとか、工夫しながらやっています。

お昼ご飯について、フードバンクさんから、食材をいただいて配ったりとか、困っている家に配ったりしています。

3月3日から3月15日までとしていただいた時には、やっぱりほっとしました。すぐ2日からだったら、本当にお母さん方も子どもたちも、対応できなかったのではないかと、その区切りがあって見通しがあって、ずっとじゃないんだという所に安心感があって、バタバタした中だったけれども、よかったかなと思います。

延期になった時には、本当にみんながっかりして、もうすごいその落胆ぶりが。友達と会えないストレス、部活が出来ない所がストレスだったんですけど、「やったー」て時に、「えー」てなったんです。その時に、科学的な根拠をとらえて、知事さんが発表してくださったり、それを丁寧に伝え

てもらったので、子どもたちも仕方がないかという感じで、納得したところがあります。

今、子どもたちもオンラインゲームとか、LINE とかの繋がりががあるので、みんなと上手にやりとりしている。だから、いろいろマイナスな面も言われることもありますけれども、こういう時には、そういう所で救われている人たちもいるのかなというのは思いました。

あとは、こういう中でも、せっかく時間があるから普段できない料理をやるとか。私の娘も料理を作ってくれたりとか、家事をやってくれたり。他の家でも、誰もいないので釣りに出かけたり、とことん釣りをやっている子どもがいるとか。好きな事に没頭できる時間と切り替えて、何も出来ないではなく、切り替えて何とかこの状況にも前向きに行こうっていう形も見られたことは、私も嬉しかったなと思います。

でも、どうしてもしんどいお家の方もいらっしゃるって、そこはサポートが必要と思うんですが、今回急にこういう事になってしまって、日頃からの繋がりがあって大事だなと凄く思いました。また、子どもたちが家で留守番をするというのが、させられないという人も多いんですけど、やっぱり振り返ってみて、発達段階に応じて家の中で子ども自身が出来ることを、ちょっとずつでも積み上げておけば、長時間の留守番が出来なくても、数時間なら大丈夫とか、お互い親子の中で安心して出来るスキルを見つけておく必要があるのかなと感じています。児童クラブとか放課後等デイサービスを見ていて、本当に先生方がご苦労様していただいて有難いなと思いました。長時間でかなり負担があったので、その元々の質のこともありますし、そこが本当に最適だったのかなという検証は、またしていただきたいと思っているところであります。

(林政策総括監)

ありがとうございます。

(山口知事)

私たちは、はじめから学校は開校しながらやっていこうと言っていたけど、それがどれくらい市町で、どう機能したのかということもありますね。

(落合教育長)

休校っていうのが先に走ったので、学校を使ってはいけないと思われたところもあります。

(山口知事)

それで、児童クラブの方にだいぶ負担がかかったかもしれないし、年度末というのが辛かった。

(小林委員)

そうですね。やっぱり卒業シーズンでしたので。

(山口知事)

これが最後だと思えないまま、いきなり終わってしまった感じですね。

(小林委員)

そうです。クラスのみなどと、もっと居たかったのにとか。今日修了式で久しぶりに学校に行きますけど、とても楽しみに行きました。そこが出来たことは、「知事さんありがとう。市長さんあり

がとう。」と子どもたちが言ってました。やっぱり節目の式、完全でなかったのがやっぱり残念だったり、「在校生も居てほしかったな」と声もありましたけど、「卒業式をしてもらえてよかった」と言っていました。

(林政策総括監)

小学校の現場とか、もし飯盛委員よろしければ、お願いします。

(飯盛(清)委員)

市町の教育委員会とか、学校長、顔見知りの方々にいろいろお話をお伺いしたんですが、歴史上今までなかった様な危機が訪れているということを理解して、指示に準じて、実態に応じて対応できたようですが、実際にいろいろ聞いた中で、一番大変だったのが給食の担当ですね。学校給食というのが、献立委員会というのが校内にありまして、2か月ぐらい前から、それを作ってメニューが決まると材料が決まって発注をして、当日届くと。給食センターを経由して届くような品物もあるようですが、今回の処置で、もうこれはキャンセルできないというのも致し方無い。何日か前に新聞に魚屋さんが投稿されてましたけれども、ここは学校が引き取って Facebook かなんかで出したそうで、そして、あっという間に完売したということを知りました。そのキャンセルが効かない場合は、その支払い方法とか、振込の場合の手数料などの問題も新たに発生したりしてました。今、自校方式ではなくて、センター方式で、そこには派遣会社から職員派遣されている。突然仕事がストップして、また給食が再開した時に、結構衛生管理が厳しくて、検便をしたりとか、そういったお話がありました。それと学年末、年度末だったということで、給食費というのは4千円程度を11か月くらいで集めて、それを食数の割り算で単価を出しているんですが、年度末に近づくと残金を残さないようにということで、メニューを工夫していくんだけど、ポンと止まってしまったということで、残ったお金をどうしようかと。在校生に関しては、次の学年に引き継ぐことも出来るということでしたけれども、卒業生とか職員の分とか、職員も人事異動があるので、そこら辺の後処理が大変だと。それで、自分がもし異動になったらどうしようか、という話もしておりました。とにかく、3月中旬に済ませないといけないという話も出てました。それと、昨日、文部科学大臣から先生方にメッセージというのが届いてましたけれども、この中で本当にコロナ関係で学校の存在価値を世の中に知らしめることが出来たという様な、「先生方、ありがとうございます」とメッセージが届いておりました。確かだなと思いました。以上です。

(林政策総括監)

加藤委員、いかがでしょうか。

(加藤委員)

うちも卒業式どうしようかってところで、苦慮しました。通常は、参加者は卒業生・在校生・保護者・来賓なんです。はじめは一旦、卒業生と在校生で卒業式をする、来賓は無しということで決まったんですけども、保護者は、やっぱり来てもらわないと、不登校の子たちが3年間これで卒業するって記念の1日になるので、保護者の制限をしなかったんですよ。ご夫婦でお見えになることが多いので。そこで卒業式を短縮しようという事で、短縮を計画してたんです。でも、うちは子どもたち一人一人に手厚くやっているんで、短縮するつもりが、結局のところ長引いちゃって、短縮にはならなかったんですけど、濃厚なっていうか、密なっていうか、温かい内輪の式典が出来たなというの

はありました。

(山口知事)

今回、改めて気付いたんですが、生徒の卒業は、教員が送り出すって、凄く大事な儀式で、それがああるから、もう1回、次の新学年頑張ろうと思うらしいです。だから、何となくいつの間にかいなくなってしまうと区切りがつかない。これから次の人生に繋ぐためには、何か「よしっ」という区切りが、お互いにとって必要なのだと思います。それを先生が凄く訴えている。

(飯盛(清)委員)

卒業式で、生徒が涙し、自分も涙する。その時、教師になって良かったなと・・・。

(山口知事)

その感覚が、やっぱり毎年の繰り返しなので、教員はそれが、凄いエンジンになる。

(加藤委員)

私が、今、危惧しているのは、入学生も在校生もそうなんですけれども、うちは経済的に厳しい家庭が全体の3割以上いらっしゃるんですよ。そこで学費の問題が今後起こるんじゃないかなと思います。入学金等の取り扱いなど、どういう風に対応していこうかと今考えてるところです。

(林政策総括監)

これから、もっといろんな課題が。さっきの給食の話でも。保護者の立場だったら。

(飯盛(裕)委員)

保護者というか、現実的に小さい子がいますけれども。こども園を経営している観点から、2・3点ちょっと意見を述べさせていただきます。2月28日に安倍首相の会見があった瞬間には、私もどうしようと、うちの職員にも小学生の子どもがいる教諭が何人もいますので、まず幹部でどうしようかと考えた時に、うちが出来ることは何かと考えて、結論はうちで預かろうと。テレビの取材とかも入ったんですけど、それこそ3月3日から休みになった日から、職員とその小学生と一緒に出勤・登園して1日中園内で過ごして、給食等も調整が出来たので、園児と一緒に給食を食べてもらうという生活をずっと送っていただきました。何でそれをしたかということ、うちは職員が欠けると、預かれる園児数が減っちゃうので、結局、地域社会に迷惑をかけるということになるので、それは絶対に避けたいといけないと考えたからです。先ほどから話が出てますけれども、再開の話が出ると、喜んで「わあー」と歓声がおきました。お別れ会もして、園児も「お兄ちゃんたち手伝ってくれて、ありがとう」と言っていたんですが、直後にまた休校となり、やっぱりかと。また戻って来て、春休みまで残りの期間を過ごしてました。うちとしては緊急事態でしたけど、小学生と園児たちが接する場が持てたことは凄くよかったですと思います。

(牟田委員)

佐賀県がするのか、国がするのか、分らないですが、今回、学校現場を止めたっていう事の効果の検証、感染拡大に対する効果検証が必要ではないかと思います。今後このまま収束するかもしれないですが、下手したら来年、5年後ってまたすぐ新たなウイルスが発生するかもしれないじゃないです

か。その時、今回やったことが、実は効果が無かったのであれば、次発生した時に休校にしなくてもいいかもしれないし、感染防止の効果があつたのかと、検証もしようがないかもしれませんが。

(山口知事)

おそらく、世界的に検証すると思います。まだ進行中で分かりません。いろいろな専門家の意見を踏まえて政治が判断しました。それがどうだったのかということについての検証が、これから行われると思います。

(大川内部長)

台湾は、学校で1人感染すれば学級閉鎖、2人感染すれば休校ということです。

(山口知事)

子どもたちのインフルエンザとかは、そうでしたよね。学校とか学級ごとに、こういう事は今までもありました。

ウイルスは、分かりませんからね。突然100年前のスペイン熱じゃないけど、突然新型コロナがやってきました。そういう所の危機管理を、しっかり国も我々も準備しておかないと、逆に言えばマニュアルとかないので、一般的な新型系のウイルスに対応する方針のようなものは、平時から考えていく必要があると思います。

(小林委員)

「何で学校だけ」と子どもたちは言っていました。

(山口知事)

そうですね。

(飯盛(裕)委員)

その判断は、我々も悩みました。小学校・中学校・高校は休みで、幼児教育は閉めなくていいのかと。

(山口知事)

フィンランドの首相だったか、子ども目線の質問に答えるコーナーがあって、分かる言葉で言って子どもたちも納得することが大事だと感じました。

やはり、子どもが自立した存在として、敬意をもってちゃんと言葉で同じ目線で対応していくというのがとても大事なことだと思います。

(落合教育長)

それと、休校を延長した時には、佐賀県内での発生という事実があって、子どもたちも納得できたでしょうけど、最初の休校はやっぱり納得がいかなかったでしょうね。なぜ全国一斉なのかと。

(小林委員)

今回はお父さん・お母さんが休めなくて、児童クラブも利用が半分できなくて、高齢の祖父母に見

てもらったお家もあったと結構聞いています。それが果たして、本当に良かったのかなと思います。

(落合教育長)

これ聞くと、やっぱり保護者の方が遠慮していますね。休校なんだから行かせてはいけないんだというのが先にきて、我々は開校しているとメッセージを出してたけど、それが中々浸透してなかったのかなと思います。

(山口知事)

反省点だね。児童クラブの方に、多く行くと、かえってどうなのかという意見もあったので。

(小林委員)

それも心配しました。学校の方が広くて安全な気がします。やっぱり遠慮してます。

(落合教育長)

それは、最初の我々のメッセージをもっと強く、出せば良かったのかなと反省しています。

(飯盛(清)委員)

子どものストレスという事で考えていたんですけども、今回は、耐えさせなければいけないストレスだろうと思います。子どもにどうそれを納得させる事ができるか、学校であれば校長、校長を通して担任、担任から子どもへ説明する。校長は保護者にもそのことを伝えて、子どもに説明をしてもらおうという様な事が、大事だと思いました。子どもたちのストレスはいつも出てきます。今回は大きな危機だから我慢なさいと、納得させられる力量というのが、今後学校に求められるのかなと感じました。

(山口知事)

子どもたちへの説明の仕方は、教育委員会が、腑に落ちるかどうか、凄く大事ですよ。

(落合教育長)

最初の時には、子どもに納得してもらえる理由付け、説明が出来てなかったと思います。それは、全国的にそうでしたけど。

(山口知事)

出来るだけ本当の姿で接しないと、建前の言葉は、子どもには通じませんので。

(2) 前回テーマ(校則と指導)についての対応報告

(林政策総括監)

次に、「前回テーマ(校則と指導)についての対応報告」について、教育長からお願いします。

(落合教育長)

前回、11月の総合教育会議で、校則の問題でいろいろ意見を交わさせていただきました。そうい

った中で、ブラック校則と揶揄されるような校則が、本県の中でも不要なものが見受けられるという事が出ましたが、その後、教育委員会でも委員と事務局職員とで、いろいろ議論をして、やっぱりおかしいものは沢山あるよねというのが、そこで確認ができました。そういった中で、いわゆる校則として、学校で決まりとして決める分と、あるいは長期休業中の過ごし方みたいなものとか、あるいは服装規定など、いろんなパターンがあって、一概に校則と一括りに出来ない状況は分かったんですけども、いずれにしても、かなり人権に踏み込んでいるようなものが見受けられる中で、やはりここは、校則を決めるのは校長なんですけど、県教育委員会としても見直しをやってみたらどうかと投げかけてみようということになりました。3月17日に、今までの議論を踏まえて、こういう視点をもって見直してくださいというのを、学校長に投げかけているところです。それが、こういった形になるか追々確認をしていきたいと思えますけれども、基本的には、そこに書いているように、最小限のことでいいんじゃないかと、こちらのスタンスをお示ししている。現場の先生の声を聞くと、校則が無くなると大丈夫かなと、生徒指導の問題にもなりますし、保護者の方から、やっぱり求められている部分が多いんじゃないかなと。子どものしつけに当たって学校から注意されていると言えるみたいなのを、そういう必要性もあるような話もあって、どこまでこういう通知で変わるかわかりませんが、まず一石投げかけて、やってみたいと思います。

(山口知事)

ダイバーシティなので、世界中いろんな人がいる中で、あまりにもおかしなのは廃止しなければならぬと。髪質を届けられないとか、あっちゃいけないですよ。

(落合教育長)

一番いけないのは、人権を尊重していないことです。

(山口知事)

絶対、おかしいのがあるわけじゃないですか。

(落合教育長)

ぜひ生徒とか保護者の意見を聞いて、議論をしてから考えてください、という投げかけをしています。

(山口知事)

コロナ対策と一緒に、子どもが腑に落ちるかということがとっても大きいから、「そうだよな」「私たちが作ったルールだよな」とか、そうしたら凄く素晴らしい世界になる。

(落合教育長)

この話が出た後、ある校長先生と話したときに、生徒に投げかけてみたら、どちらかというと生徒の方から厳しい意見が出たと、校則について、厳しくしとかなくちゃいけないと。そういう意見もあるようです。

(林政策総括監)

それは、どういう背景なんですか。生徒の方から厳しくしてほしいというのは。

(落合教育長)

どうでしょうか。まずいんじゃないかと、自制心が働いてるのではないですかね。

(林政策総括監)

これも、このテーマで投げかけた自立心かもしれないですね。

(落合教育長)

学校によっては、すごく温度差があってもいいかなと、それをまた共有してもらって、また、クローズアップしてもらっていいかなと思います。

(林政策総括監)

ひとまず来年度に向けてということですか。

(落合教育長)

現実問題として、校則は結構、生徒手帳とかに書いてあったりしますし、その印刷は、12月ぐらいに発注されますので。

(山口知事)

校則は、生徒手帳に書いてあるんですか。

(落合教育長)

書いているところもあります。学校にもよります。

(山口知事)

まずは、マフラーはみぞおち上まで。

(落合教育長)

そこは、ないです。

(小林委員)

服装の規定や、頭髪の規定などが、生徒手帳に書いてあります。

(林政策総括監)

4月は、現行通りスタートするにせよ、リストアップすることからですね。

(落合教育長)

4月に間に合うわけではないですが、確かに議論を始めてほしいです。

(山口知事)

それと、徹底的に駄目なもの駄目だけど、それ以外は、県立高校として一律のものがあってもいい

ですよ。

(落合教育長)

県立もいろいろな事情があるから、それは私もいろいろあるかなと思います。

(林政策総括監)

市町の教育委員会からの反応というのは、何かないんですか。

(落合教育長)

市町の教育委員会からは、まだ直接、意見交換してないですね。そこは、追々、市町の教育長とお話をしていきたいと思っています。

(飯盛(清)委員)

今回、春休み前の長期休業前には、必ず生活の決まりみたいな文書を、小・中・高校に出すんですが、今回、県立学校にこういう通知を出す文言を前もって見せてもらってたので、うちの学校では、生徒指導部が、春休み前の文書に、試しとして、「ここにいろいろ決めてあることは、生徒の安全を守る視点で、長年の話し合いのなかで決められてきたことです。どうしてこういった決まりがあるのかを、話し合う機会にさせていただくと有効になっていきます。」と文言を付けてみました。今日の修了式でその資料を配ってますけど、どう反応されるか。

(落合教育長)

改めて考えてもらいたいですね。前から決まってるからって、いろんな経緯でいろんなものを付け加わってきてるんでしょうけど、現時点で見直す視点が足りなかったかなと思います。

(山口知事)

そうですね。こういうのは、直してあげないと、ルールを自分たちで変えるのはすごいパワーが必要ですから。

(小林委員)

今回のコロナの休校で、「どれだけ外で遊んでいいのか」というのも、自分で考えて決めれない。「決めてください。言ってください。」という声が多かったので、保護者さんたちも「校則で決まってるから守るんだよ」じゃなくて、何でこういう校則が決まってるのか、やっぱりTPOに合わせて行動できるよう、家庭で親も言えるようになることが必要かなと思います。

(3) 教育分野に係る令和2年度の主な取組

(林政策総括監)

ありがとうございます。次の項目にいきたいと思います。来年度の主な取組・方針を、御紹介いただければと思います。

(落合教育長)

教育委員会の来年度の予算、柱が、志を高める教育から、「知・徳・体」と言われる柱に沿って整備してるんですけど、志を高める教育という点では、さがを誇りに思う教育、郷土について改めて子どもたちにしっかり学んでもらいたいという教育。2番目は、県内就職を薦めたり、こういうのをしっかり柱に進めたいと思います。それに加えて、新規として去年実施した、さが総文の志をぜひ継承したい。特に、文化部部活動を活性化する事業をしたいなと思います。

次のページで、知・徳・体の、心の部分なんですけど不登校対策がどうしても今重要で、ここに対応する「しいの木」というのがありますが、機能を強化して全県的な取組を促進していきたいと考えています。

特別支援学校がスペース不足になりつつありまして、いくつかありますけど、まずとっかかりとして、うれしの特別支援学校、大和特別支援学校の増築に取り組むようにしています。あと、資料下の方の部活動については、教員の働き方改革にからめて、外部の指導者を活用していこうということで、部活動指導の質を高める事業にしていこうと思います。

(林政策総括監)

ありがとうございます。続いて私学の説明をさせていただきたいと思います。知事部局の方から、私が御説明させていただきます。

私学関係の主な取組が、大まかに分けて3つの柱がございます。職業人材を育成するということ。それから、魅力ある学校づくりの推進。主に運営費補助ですとか、団体への助成金でございます。それから、保護者負担の軽減。この3つに分かれます。

まず1つ目の職業人材の育成につきましては、これは新規ですが、資格取得や技術習得等に必要な教育環境の充実ということで、北陵高校での取組の横展開というものでございます。私学に県内就職希望者が多いんですけども、北陵高校では、資格取得や技術習得に力を入れて設備整備などの支援をしたところ、県内求人が4割アップいたしました。他の高校でも、そういう必要な設備整備を支援すること、また、外部講師を招聘して技術習得する。そうした取組によって、さらに県内求人を増やして県内の就職率をアップさせていきたいと考えております。

主だったもので、次のページですが、保護者負担の軽減でございますが、私立高等学校の就学支援金、授業料の支援金があります。来年度から年収約590万円未満の世帯まで拡充されますが、併せて専攻科の生徒への支援制度が創設されます。本県においては、佐賀女子高校の衛生看護専攻科が該当します。

(山口知事)

これは、佐賀県が、国に提案したものですよね。

(林政策総括監)

はい、授業料の無償化が始まる時は、高校や高等専門学校、専門学校といった所が対象になっていて、専攻科が漏れていたということがございました。これも制度の支援対象ではないかと、提案をさせていただいた結果、実ったものです。

次のページです。他には保護者負担の軽減で、拡充の部分ですが、入学金に対する支援を拡充します。入学金補助として年額2万7千円補助をしておりますが、その対象世帯を590万円未満の所得世帯まで拡充をするという県の独自の補助です。

一番下の高等教育修学支援事業費でございますが、私立の専門学校に通う生徒の授業料、入学金に

に対する支援についてでございます。これは、住民税非課税世帯に対して行うものであります。主だったところは、以上です。

(山口知事)

子どもたちにとってコロナって、ずっと忘れないでしょうね。

(小林委員)

今回中学校卒業の学年は、小学校入学の時は東日本大震災がありましたね。  
重なって、大変だったけど、前向きになれるようしてやりたいなと思います。

(林政策総括監)

全体として、何かございますか。

(飯盛(清)委員)

私学助成の話がありましたけど、私学に身を置いている立場として、先生方にしっかり光が当たる部分が少ないなと。公立学校の先生方は、長年頑張ってきた方に対して表彰制度があって、文科大臣表彰まで続いているものもあるんですが、私学で、例えば、ずっと部活を頑張ってきた先生方がそういう対象に中々ならないんです。先生方の活性化というところで検討いただければと、予算はそんなにかからないと思いますので。

(山口知事)

確かにそうですね。盲点だったかもしれない。私学の先生は、ずっと同じ学校ですね。表彰が少ないかもしれない。

(飯盛(清)委員)

文科大臣表彰の全国を見ると、都道府県によっては私学の先生も表彰対象に挙がってるような所もあるんですよ。そこは、まっすぐ文科大臣表彰ではなくて、その前に都道府県別で表彰を受けた方が対象になっていると思うんです。

(林政策総括監)

検討させていただきます。

(山口知事)

確かにそうかもしれない。うちだけ盲点かもしれないです。

(林政策総括監)

ありがとうございます。これで、総合教育会議を終わらせていただきます。ありがとうございます。